雪舟等楊

室町時代に活躍した禅僧であり、日本を代表する水墨画家。備中(現在の岡山県)に生まれ、10歳の頃、京都の相国寺に入り、禅の修行を積むと同時に当時著名な画家・周文に水墨画を学んだ。その後、周防(現在の山口県)の守護大名・大内氏の庇護を受けて画業に専念する。1467~69年、48歳の頃に中国・明へ渡り、本格的な水墨画を学ぶ。現在、雪舟による水墨画6点が国宝に指定されており、個人作では最多である。雪舟について有名な言い伝えが残っている。それは京都に上る前、生家近くの宝福寺に入った若い頃、絵ばかり好んでお経を読もうとしない雪舟を寺の僧侶が仏堂の柱にしばりつけたが、落ちた涙を使って足の親指で床にネズミを描いたところ、僧侶はその見事さに感心して絵を描くことを許したという。